

**オンラインワークショップ**  
**「日本語教育の参照枠」を活用したカリキュラムを考える」**  
**の事前課題について**

**1. この資料の目的**

この資料は、「日本語教育の参照枠」を活用したカリキュラムを考えるためのワークショップ資料及び目を通しておくべき参考資料等についてまとめたものです。ワークショップに参加する前に、まずは個人でワークを行い、本資料で触れる報告書やウェブサイト等に目を通しておいください。

**2. 資料一式の内容**

今回お送りする資料は以下の通りです。これらの他に、関係資料、論文、マニュアル等は手順ごとに URL を示しましたのでご確認ください。

- (1) オンラインワークショップ「日本語教育の参照枠」を活用したカリキュラムを考える」の事前課題について（本資料）
- (2) 資料 1-1：「日本語教育の参照枠」 レベル感ワークショップ.docx
- (3) 資料 1-2：（解説）「日本語教育の参照枠」 レベル感ワークショップ.docx
- (4) 資料 2：「日本語教育の参照枠」 Can do 一覧（14 言語）.docx
- (5) 資料 3：「生活 Can do」 一覧表 1・2（A1-B2）.xlsx
- (6) 資料 4：3 分野ごとの言語活動の目標

**3. 課題 1：令和 3 年度「文化庁日本語教育大会」（WEB 大会）、動画「日本語教育の参照枠」について（13 分 13 秒）を見る。**

「日本語教育の参照枠」に関連する手引きやツールなどについて理解するために、下記の動画を見てください。また、この動画のほかに令和 3 年度、令和 4 年度は「日本語教育機関の参照枠」に関するシンポジウムやパネルディスカッションの動画もありますので、時間があればご覧ください。

[令和 4 年度「文化庁日本語教育大会」（WEB 大会） | 文化庁 \(bunka.go.jp\)](#)

**4. 課題 2：「日本語教育の参照枠」の活用のための手引」に目を通す。**

下記リンクにて、「日本語教育の参照枠」の活用のための手引」が公開されていますので、目を通しておいください。「日本語教育の参照枠」については、第 1 章に Q&A スタイルの説明がありますので、参照ください。また、第 2 章は Can do をベースにしたカリキュラム開発の方法となっており、ワークショップ当日はこの章の内容を扱いますので、目を通しておいください。

[93696301\\_01.pdf \(bunka.go.jp\)](#)

5. **課題3**：ワーク1から4までを行う

「日本語教育の参照枠」を活用したカリキュラムを考える上で必要となるレベル感を身に付けるために「資料1-1：日本語教育の参照枠レベル感ワークショップ」を使って、1から4までのワークを行います。今回は事前に自分でワークを行い、「資料1-2（解説）同」を読んでおいてください。また、質問等がある場合は、質問事項をまとめておいてください。

なお、レベル感ワークショップについては、自分が判定したレベルが合っていた、合っていなかったことよりも、何を根拠に自分はそう判断したのかを説明できることが大切です。自分の中の判断基準をより明確に意識し、他者にわかりやすく説明することを通して、レベル感は自然に身についていきます。間違えることを恐れずにワークに挑戦してください。

6. **課題4**：資料2、資料3のCan do一覧のエクセルファイルに目を通す。

下記、資料2、資料3のエクセルファイルを開いて、下記①-③の視点を念頭に置き、ざっと目を通しておいてください。

【確認資料】

資料2：「日本語教育の参照枠」Can do一覧（14言語）.docx

資料3：「生活Can do」一覧表1・2（A1-B2）.xlsx

資料2、資料3のCan doについて、

- ① それぞれの書きぶりにはどのような違いがあるか。
- ② それぞれのカテゴリーにはどのような違いがあるか。
- ③ 各レベルの書きぶりにはどんな特徴があるか。レベル固有の表現があるとしたら、それはどのような表現か。

7. **課題5**：3分野ごとの言語活動の目標で示されたCan doを確認する。

資料4は、「認定日本語教育機関の認定基準等の検討に関するワーキンググループ」の第4回で示された資料です。認定日本語教育機関における3分野ごとの言語活動別の目標を示したものです。当日のワークショップでもこの資料を扱いますので、分野ごとにどのような特徴があるのかを確認しておいてください。

8. **課題6**：疑問、質問をまとめておく

課題1～3を進める中で、疑問に思ったことや質問などをまとめておいてください。また、自分が所属する機関で、このようなCan doを用いて、コースデザイン（学習目標の設定、学習活動の設計、評価など）を行うとしたら、どのような点が難しそうかについても、考えておいてください。当日のワークショップでは、生活、就労、留学のグループに分かれて話し合いを行うとともに、みなさんの疑問、質問について、参加者、講師のみなさんで考えていきたいと思っています。

以上